

令和4年度 東京都立東大和高等学校 学校経営報告

校長 山崎 仁

1 今年度の取組状況と達成状況に関する評価

I 学習指導

取組目標	方 策	取組状況
全ての生徒に、基礎学力の定着を図る。	① 放課後や長期休業期間中に補習・補講を実施して、生徒の学習意欲を高め、学力向上を扶ける。	○夏期休業中の講習は、生徒の必要性や興味関心に応えるものが増えてきた。課題として、講習を提示する時期を早めること、講習と部活動の両立を学校全体で考えることが不可欠である。放課後の活用も更に推進する。
	② 小テスト・定期考査・模試の振り返りを行わせ、提出させて確認を行っていくことから、基礎・基本の定着を図る。	△定期考査・模試の振り返りを行わせるための仕組み作りが十分ではない。判らなかつたことをしっかり確認させる取組が必要。
生徒の学習意欲を向上させるため、授業内容・方法の工夫を行う。	① 生徒が主体的に活動できる協働型・双方向型の授業を、ICT機器の活用等により目指す。オンライン・ハイブリッド授業も推進する。	○W i f i が設定されて以降、ハイブリットやオンラインに対応できる教員が増えている。生徒へのモバイル活用も多くなった。
	② 生徒の理解度を高めるため、習熟度別、少人数授業を他の教科・科目での実施も推進する。	◎習熟度別学習は、数学Ⅰ、論理・表現Ⅰ、論理・表現Ⅱで実施できた。次年度は数学Ⅱ、3学年英語表現Ⅱの実施予定で、数学・英語の完成を見る。古典については継続検討させる。家庭基礎は、施設の関係で今年度より少人数授業を開始できた。
	③ 生徒が授業の見通しをつけやすくするため、授業開始時には学習内容を提示するとともに、終了時には学習内容を再度確認させる。	◎生徒に授業の見通しをつけさせる取組として、学習内容確認を開始時及び終了時に行っている教員は多い。
課題探求型、問題解決型の授業や、言語表現能力を伸ばすための授業を準備する。	① 教科・科目特性に応じて、言語活動を充実させた授業を行う。	○教科指導の中で、言語活動に関わる内容を実践している教員も見られてきた。
	② 学習指導案を作成した研究授業を年1回実施するとともに、他の教員の授業見学を年1回行い、授業の改善に生かす。	○指導案に基づく授業見学を全ての教員に実施。授業見学は、教員の差は大きい。
学習指導内容の校内での統一化を図る。	① 指導内容を統一するため、定期考査は、統一問題とする。	△統一問題について、多くの教科で取り組んでいるが、まだ進んでいない教科があり、観点別評価のあり方とともに検討が必要。
	② 模試分析会を実施して、生徒の学力の不足している箇所を把握して、教科ごとに問題点を明確にして、授業改善に生かす。	○進路指導部が推進して実施できた。学年の担任以外の参加教員が少なく、教科担当も参加できる開催方法の工夫が必要である。

## II 進路指導

取組目標	方 策	取組状況
3年間を見通した系統的、組織的な進路指導をきめ細かく行う。	① 年2回以上個人面談を行なう。三者面談は、学年で統一した様式により、ホームページでも保護者に周知して年1回以上行なう。	○個人面談は適切に実施できている。三者面談は、全員に行うことを基本とする意識を持って臨む必要があるが、まだ十分ではない。
	② 保護者に向けて、外部講師等による進路説明会を開催する。	△保護者向けの進路説明会は、PTAの協力を得て、PTA主催で実施した。進路指導部が計画的に実施できることが望ましい。
進路相談機能を充実させる。	① 進路指導室にネットワークを整備して常駐する体制を構築する。	◎Wifiの設置もあり、進路指導部で進路指導室にできるだけいるようにする体制がとれた。生徒保護者への周知を確実にできるようにすることを行う。
	② 保護者に対しての進路相談もできるように配慮する。	△保護者への進路指導の必要性やニーズを意識して、学校からのサービスが提供できるように、ホームページでも周知できるようにする。
既卒生の進路動向を把握する。	既卒生の進路動向を調査書申請時と卒業証明発行時に把握する。	○調査書申請時の動向把握は行えなかったが、証明書発行時のデータ収集に努めた。
進路指導データの蓄積を行い、教員の共通理解を図る。	① 校内模試は、進路指導部中心となり、計画実施する。特に3学年の模試実施を検討する。	○校内模試は、進路指導部が学年と調整して実施している。3年間を見通した模試計画を作成すること、3学年の2学期にも模試を実施することが必要と考える。
	② 模試データを活用して、模試分析会を実施する。模試分析会には、教科担当と担任が参加し、教科会で改善計画を立てる。	○学力分析のための模試分析会は、進路指導部が中心に実施できた。参加教員が学年担任以外で少ないため、増やすことが課題である。
	③ 進路報告会を開催し、学校としての進路指導の継続性を図る。	○進路報告会を職員室で行い、参加教員も一定数確保できている。学校の進路指導のあり方を確認する上でも模試データを活用するなど改善を図る。
学力向上のため、長期休業日中の講習の参加生徒の増加を目指す。	① 長期休業日に講習期間を設け、各教科で内容を検討して、全員態勢で取り組み、生徒が講習を受けやすい体制を作る。	○1・2学年は国・数・英で、3学年は各教科で、夏期講習の計画・実施ができたが、生徒の受けやすい体制の工夫が必要である。
	② 午前と午後同一講座を設定する等、全学年の生徒が講習と部活動を両立しながら参加できる工夫をする。	△夏期講習の実施形態については、全校で検討しないと、講習と部活動の両立を図ることができない。全ての希望する生徒に講習が受けられる工夫が必要である。同一講座設置は十分ではなかった。
	③ 講習の講座内容・日程を2ヶ月前に提示し、学習計画を立てさせる。ホームページにもUPして、保護者にも周知する。	▲できるだけ早い周知を指示したが、2ヶ月前には提示できていない。保護者への周知のあり方も課題である。
	④ 生徒の知的探究心・好奇心に応える教養講習も開講する。	○生徒の知的好奇心に応える講座を解説できた。次年度以降も継続する。

### III 生活指導

取組目標	方 策	取組状況
基本的な生活習慣の確立に向けた指導を重点的に行う。	① 挨拶を励行して、コミュニケーションの円滑化を図る。	○挨拶は、基本的にしっかりしているが、以前と比較すると挨拶の度合いが低くなったと考えている教員もいる。
	② 自転車通学は、被害者、加害者にならない安全指導をする。	○自転車通学での安全走行は地域から苦情連絡も時折あったが、概ね良好である。加害者にならないような、安全教育も不可欠である。
安心して生活できる教育環境を整える。	生徒会を中心として、生徒各自が「SNS東大和ルール」をしっかり認識して、ソーシャルマナーを身につけた生活ができるようにする。	○「SNS東大和ルール」についての周知は、もっと積極的に行っても良い。生徒の使用マナーは比較的良好だが、一人一台端末の活用と共に、検討していく。
時間を有効に活用できるようにさせる。	部活動と学習活動の切替を素早くさせ、隙間時間を上手に使わせる。	△部活動と学習活動の切替が良好でなく、両立できていない生徒も見られた。
著作権意識を高める。	著作権・商標権等を尊重する意識の醸成と、許諾の手続きを徹底させる。	○文化祭等で、生徒に著作権等を尊重して、許諾をとらせる取組をしっかり行わせる。
東大和生として一体感と誇りを持たせ、学校生活を充実させる。	① 企画室職員と教員が連携して、生徒会会計にも会計処理を関与させる。	△生徒会予算執行に役員が関与する割合が低い。担当教員がほぼ行っている状況である。
	① 学校行事の時期や実施方法について、関連部署で見直しを行う。	△全般にわたって見直しが必要であるが、しっかり行っていない。全校で検討を行う。
部活動を適正に運営できるように配慮する。	① 部活動の活動について、東京都教育委員会の指示を遵守して決定する。	△部活動の活動日数や活動時間が適切に行われていない部活動が見られる。
	② 年間計画・目標、指導方針、指導内容、指導方法を策定して保護者にも周知する。週予定も生徒・保護者に事前に提示する。	○活動計画や週予定については、改善が見られている。早い時点での提示じゃ保護者からの強い要望もあり徹底していく。
	③ 部活動保護者会を開催し、部顧問と保護者の連携を図る。	◎保護者会の設定を含み保護者連携は概ね良好である。
	④ 平日の部活動終了後には、速やかな下校を指導する。活動延長の際は、職員室で把握できるようにして、徹底した下校指導をする。	▲速やかに下校できていない部活動がまだある。下校指導を生活指導部が中心となり、組織的に行わなければならない。また、職員室で把握する取組も推進する。
	⑤ 定期考査前の部活動は原則休止とし、学習時間を十分に確保する。	○概ね達成できている。部活動顧問だけでなく、部活動指導員、外部指導員にも徹底を図っている。

### IV 環境美化・健康増進

取組目標	方 策	取組状況
新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底する。	① 生徒の健康観察を確実にし、感染防止対策をする。	○生徒の健康状況把握は、状況に応じて対応し、サーモメーターでの確認も実施した。
	② 教室や特別教室の消毒等を確実にし、行う。	◎学級担任及び使用担当が確実に実施できた。

学校保健計画を策定し、健康の保持増進の推進に努める。	① 学校保健計画を策定して、学校保健委員会を年2回開催する。	△学校保健委員会は、1回しか実施できていない。次年度は2回実施できるように準備する。
	② 病院搬送が必要な生徒は、PTA支援を活用して、迅速に行う。	○PTA支援は、十分活用している。養護教諭以外の教員による搬送が主体になってきた。
スポーツに親しむ態度を育成し、体力向上の取組を実施する。	① 授業・特別活動を通してスポーツに親しむ態度を育成するため、球技大会・体育大会を実施する。	○感染防止のため、学年毎に実施した。学年毎の開催も含め臨機応変の準備が必要である。
	② 教科間連携や部活動指導により充実する。オリンピック・パラリンピック委員会を中心として、生徒にできる取組をさせる。	○オリンピック・パラリンピック委員会が中心に取組を実施できた。
体罰・いじめの防止を徹底する。	「学校いじめ対策委員会」による体罰根絶研修を実施して、いじめや暴力のない活動を推進する。	○体罰根絶について、全学的に取り組んでおり、生徒アンケートも活用している。
生徒を支援して、生徒・保護者の相談機能を充実する。	① 保護者対象相談会を開催する。	●保護者対象の相談会は、開催できなかった。
	② 生徒支援委員会で、課題ある生徒の共通認識と支援策を検討する。	○学校及び学年コーディネーターの連携もあり、生徒の把握ができた。個別の対応を積極的に実施するための検討に移行させたい。
ゴミの減量化と、計画的な廃棄を実施する。	① ゴミの削減・分別・処理方法を具体的に示し、資料を掲示する。	○年間を通した清掃活動は、適切に行った。スローガン作成等につなげる。
	② ゴミの減量化とリサイクルに努め、廃棄は計画的に実施する。	○1学年はゴミ箱を設置せずに、持ち帰りの指導を行った。リサイクル活動にも取り組ませる。

## V 募集・広報活動・地域交流活動

取組目標	方 策	取組状況
入学選抜の業務を確実に行う。	① 推薦に基づく選抜は、受検生の思考力をみる作文問題を作成するとともに、点検を確実にを行う。	◎作文は、生徒の思考力を見る問題作成を行えた。問題作成委員会による点検も問題なく、確実に実施できた。
	② 採点業務の組織的な対応、複数での点検等で、業務を確実に実施する。	○採点業務は、推薦・学力ともに問題なく、確実な実施をすることができた。
	③ 推薦・学力ともに要項作成は十分余裕を持って行い、教員に周知する	△要項は、整備できてきた。作成はもう少し早く開始して教職員に、周知できるようにする。
視覚効果のある広報誌を早期に作成し、広報活動の充実を図る。	① 学校生活が視覚的にわかる、魅力ある学校案内を作成する。	◎学校案内は、見やすさや内容を考慮して改善を図ることができた。
	② パワーポイントを用いて、学校生活や学校運営を紹介する。	○学校説明会をはじめとして、パワーポイント等を活用して資料作成を行えた。
学校説明会や授業公開を活用し、中学生に東大和高等学校のよさを知ってもらおう。	① 学校見学会を常設するとともに、上級学校訪問も受け入れる。	○学校見学会は、適切に実施した。上級学校説明会・訪問も少なかったが実施できた。
	② 広報資料は1年生に中学校へ持参させる。	◎総務部と学年が連携して実現できた。
	③ 授業公開・学校説明会は土曜日を使って、全校体制で年2回実施するとともに、都立学校等合同説明会に参加する。	○学校説明会は体育館において、3回実施し、生徒の説明は好評であった。合同説明会は、教職員の参加・取組の仕方に改善が必要である。

## VI 組織体制・学校運営

取組目標	方 策	取組状況
企画調整会議の円滑な実施を行う。	① 会議資料は、A版で作成する。 ② 会議前日までには、資料を作成して、管理職に確認を受ける。	◎ほとんどの分掌がA版で作成できた。 △事前相及び確認ができていないことが少ない。外部が関係する案件は特に確認が必要である。
授業料徴収事務は、適切に実施する。	① 就学支援金制度を、適正かつ迅速に事務処理を行う。 ② 授業料未納者への督促は、迅速に適切な実施をする。 ③ 個人情報の取扱には、鍵のかかる場所に保管して厳格に行う。	○就学支援金制度の運営は適切である。 ◎速やかな対応ができています。 ◎適切に運営している。
部活動に係る服务意识を向上させ、服務事故根絶を目指す。	① 部費は、銀行口座で一元管理して、各月・学期毎に適正執行する。 ② 大会等で学校施設を使用する際は、使用届を起案決定する。 ③ 部活動の合宿費は、振込による通帳管理を徹底する。 ④ P T A ・同窓会による奨励金は、用途を明確にして適正執行を行う。	◎様式等の変更も行い、部費を徴収している部活動については、適正に執行できている。 ◎施設使用願の提出は、概ね良好である。 —合宿費については、一部のみの実施であったため、次年度以降の徹底を図る。 △奨励金については、領収書等添付の上処理を徹底することとする。
図書館の利用率を高め、読書活動を推進する。	① 司書と司書教諭の連携により図書選定を行い、計画購入する。 ② 書架整理・蔵書点検・未返却者督促状などによる環境整備を行う。 ③ 書評合戦（ビブリオバトル）の校内予選を実施する。 ④ 読書活動を読書月間で推奨し、読書感想文コンクールを実施する。	○図書館整備は、計画的に実施できている。 ○生徒のニーズを考慮して、課題図書設定等を行っている。 ▲ビブリオバトルについては、今年度は実施できなかったため、次年度は確実に実施させる。 ◎読書活動は、読書感想文コンクールを始めとして、円滑に運営できた。
予算執行状況の管理をしっかり行い、有効活用する。	① 年間授業計画を11月初旬までに策定して、予算作成を行う。年間授業計画は、年度当初に全生徒に周知する。 ② 予算進捗状況を四半期ごとに確認して、未執行のものは、計画変更する。契約落差金を有効活用する。 ③ 予算有効活用のため、センター執行率60%を目指す。	○年間授業計画を踏まえて、予算編成の策定を行えた。年間授業計画はホームページに掲載しているが、周知方法を工夫する必要がある。 ○予算執行状況の把握は、一定程度できている。落差金の使用用途について、より有効な手段を検討する。 △用品がセンター執行に含まれないため50%だったが、センター執行を可能な限り伸ばす。
防災等の危機管理体制の整備に努める。	① 避難訓練を年4回実施し、生徒・職員・来校者の人員確認を徹底する。 ② 校内実施の防災訓練並びに防災活動支援隊による活動を推進する。	○避難訓練は工夫を凝らして実施した。次年度以降も様々な状況に合わせた実施を行う。 △生徒主体の防災活動支援隊の活動を活性化させる工夫が必要である。
施設の有効利用を進める。	① 授業スペースを確保し、既存施設を有効活用するため、校内施設利用状況の把握・今後の利用への検討・計画立案・実施する。 ② 安全上問題のある不具合については、学校経営支援センター経営支援室と連携して早急に改善を図る。	◎現在の施設を活用して、学校運営を行っている。空き教室が少ないため、習熟度や少人数授業の工夫をする。 ◎施設改善については、定期的に点検を行い、補修・修繕を速やかに行うように努めた。

## 2 重点目標と数値目標

今年度の重点目標	数 値 経 過 及 び 令 和 4 年 度 目 標 数 値				達成数値
進学実績を向上させる。	○国公立大学及び難関私立大学合格者数				2人
	31年度 2人	2年度 4人	3年度 2人	⇒ 4年度 4人	
	○GMARCH合格者数				18人
31年度 3人	2年度 8人	3年度 22人	⇒ 3年度 10人		
○センター試験受験者数				170人	
31年度 171人	2年度 160人	3年度 225人	⇒ 4年度 160人		
長期休業期間中の講習を充実させる。	○講座開講数				47講座
	31年度 41講座	2年度 29講座	3年度 37講座	⇒ 3年度 40講座	
学校広報を強化して、募集対策を計画的に実施する。	○学校説明会来校者数				1077組
	31年度 1882組	2年度 380組	3年度 1030組	⇒ 4年度 1000組	
	○推薦に基づく入学者選抜倍率				男4.52倍 女3.38倍
2年度 男4.46倍 女3.50倍	3年度 男4.25倍 女3.26倍	4年度 男4.39倍 女3.23倍	⇒ 5年度 男4.00倍 女3.00倍		
○学力検査に基づく入学者選抜倍率				男1.39倍 女1.15倍	
2年度 男1.50倍 女1.36倍	3年度 男1.22倍 女1.12倍	4年度 男1.22倍 女1.13倍	⇒ 5年度 男1.25倍 女1.15倍		
生徒支援委員会で生徒に関する共通理解を図る。	○生徒支援委員会実施回数（木曜日）				19回
	31年度 17回	2年度 14回	3年度 15回	⇒ 4年度 20回	
学校評価アンケートにおける学校満足度を向上させる。	○教育課程における満足度				生徒 84.7% 保護者 85.3%
	31年度 生徒84.1% 保護者88.0%	2年度 生徒83.6% 保護者84.3%	3年度 生徒87.5% 保護者86.0%	⇒ 4年度 生徒 85% 保護者 85%	
○特別活動における満足度				生徒 89.6% 保護者 86.6%	
31年度 生徒86.5% 保護者84.3%	2年度 生徒84.5% 保護者83.7%	3年度 生徒91.8% 保護者89.6%	⇒ 4年度 生徒 85% 保護者 85%		

### 3 今年度の課題と改善策

開校52年目を迎えた本校の教育目標は「スポーツの振興」を掲げている。今年度は、東京都教育委員会から「Sport-Science Promotion Club」の指定も受けており、学校行事、部活動において精一杯頑張る経験を生徒に積ませていき、生徒一人一人の人間力を高める指導を行うように心掛けている。学習活動においても「学校で学ぶ」ことを着実にを行い、生徒が自己実現に向けて「自ら考え、判断できる」力を身につけられるような授業実践を、教員に目指させている。

新型コロナウイルス感染症による学校での対応も3年目を迎えた。感染防止対策を徹底してきた中で、学校行事や特別活動、そして学習活動にも大きな影響を受けてきた。ハード面となるW i f i の設置や、環境整備も一定程度進み、生徒1台端末の完備も1学年から始まっている。それぞれの教員がI C T機器を活用して、オンライン授業を実施できるようになってきており、生徒が在宅でも学習できる環境は、ソフト面の強化からも行えるようになってきた。その上で、本校の特色を生かした今年度の課題と次年度に向けた改善策を示す。

#### (1) 学習指導

- ・今年度は、年間を通して対面授業を実施することができたが、新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑みながら、わずかではあるが自宅学習を活用した。感染防止対策を徹底しての授業実践となっていたが、W i f i の整備が整ってきた中で、欠席した生徒の対応としてオンラインを活用した取り組みを行う教員も増えてきた。また、学習支援ツールである、スタディサプリの活用も推進している。

- ・本校には、部活動に全力で臨みたいと思っている生徒が多く進学している。ただ、部活動だけでなく、学習面でも頑張り、両立したいと思っている生徒も多い。体力や運動神経に優れた生徒が多く入学しているが、実際には、部活動と学習を両立できるだけの意識が備わっていない生徒も多い。中学校と高校との学習内容や、通学に時間がかかるようになった生徒も多い。学力の個人差は、目的意識の差もあり、同レベルの都立高校と比べても大きいことが、データからも判る。この状況を改善していくため、昨年度より習熟度別学習を開始した。今年度は、1学年の数学Ⅰ、論理・表現Ⅰ、2学年英語表現Ⅱで習熟度別学習を行った。生徒が学ぶ意欲や学力の定着は、向上している。さらに、学力がある生徒の能力を高めることと、学習に困難さを抱える生徒の学力の底上げを図ることが目曜とすべきことである。生徒にとって必要であるものを教職員に検討させて、即時性を持って実行に移すこと、また中長期で実行しなければならないことを明らかにして、実現していく必要がある。習熟度別学習の拡大は、苦手意識の高い国語の古典分野にも繋げていく必要がある。

- ・自宅学習時間の確保は、学力の向上のために大切な事柄である。十分な時間を確保するためには、時間の有効活用も鍵となる。最終下校時間までには、生徒を速やかに下校させることが大切であるが、下校時間を過ぎても校内に留まっている生徒も見られている。部活動が活発だからこそ、部活動に精力的に取り組ませることと下校時間を遵守させて自宅学習時間を確保させることの両立を図らなければならない。そのためには、学校としての組織的な下校指導と、自宅学習時間の調査を的確に行い、学習時間増加に向けた組織的に取組を行わなければならない。進路指導部と生活指導部を核として、全校で連携した指導を行うことを計画させる。

- ・図書館の充実と、読書活動の活性化の取組は、大切な事項である。国語力は、全ての学習活動の礎となるものであり、言語活動を全ての学習活動でも意識して行うことを実践する。本校では夏期休業期間中に読書活動を推進して読書感想文コンクールも長年継続している。ビブリオバトルの取組は、本年度実施できなかったため、次年度は教育活動の一環として実施したい。また、生徒の自発的な読書推進活動を図書委員会等の活動で行わせる。

- ・自習室がないため、生徒は廊下においた机椅子での学習をしている。3学年が中心であるが、放課後の教室を自習室として活用できるように検討する。また、「土曜日の教育支援体制等構築事業」の活用も検討できる。

- ・学習活動の一環として、1学年「歌舞伎教室」や2学年「バレエ鑑賞」を計画したが、新型コロナウイルス感染症による影響のため、1学年は延期して「文楽教室」の実施、2学年は中止となった。次年度も学年毎の開催として、古典や文化に親しむ企画を実施する。

- ・2学期の授業観察の際は、指導略案を作成させて、授業のねらいや方向性の確認をすることができた。

- ・教員相互の授業見学は、教員による差が大きい。教員相互に学び合い、授業力向上に向けてアドバイスできる環境を整備する。

## (2) 進路指導

・夏期講習は、一昨年度から進路指導部が推進して実施している。2年前から1・2学年の講習講座の設定も行う様にして実施している。しかし、生徒の参加者数が十分に伸びていない。その理由として、講習参加と部活動が重なることもあり、部活動を優先する傾向が大きいことと思われる。どちらかを選ぶのではなく、両方とも選択できるように、時間や期間の設定や、教科間の調整が必要である。そのためには、全校体制を組んで講習の計画・編成・実施することで、教科を横断して講習を設定することができる。また、生徒が参加しやすいように、部活動との連携を図り、一定期間は講習を優先する期間を設けることもできる。長期休業期間中の部活動は3時間が限度であるため、午前と午後と同じ講座を設定して、どちらかには参加できるようにすることもできる。様々な可能性を校内で進路指導部を中心として検討させる。また、3年生を始めとして、校内の講習に参加するためには、設定講座の生徒への周知をできる限り早く行うことも大切である。学校経営計画では、2ヶ月前の提示（6月上旬）を謳っているが、実際にはかなり遅くなっていた。生徒への早めの周知には準備が大変ではあるが、重要な事項である。また、ホームページに募集案内および申込書の掲載を行い、保護者への周知を図る必要がある。

・大学進学を希望する生徒に対して、推薦による進学を希望していても、外部模試の活用としてマーク式と記述式を併用したドッキング判定は必要である。生徒の学力を的確に把握するため、3学年次の校内模試をどのように設定するかは重要である。令和6年度以降、3学年次の模試を9月にも全員実施することを実現したい。

・模試分析会のあり方について、当該学年担任だけでなく、学年の指導担当の教員の参加を悉皆として行うようにしないと、単発的な分析で終わってしまう。年間計画に位置づけて行い、教員参加を徹底させる。

・模試分析結果を受けた教科の改善策等の検討事項について、システム化することはできなかった。副校長と進路指導部による進捗管理を徹底して、校内模試の分析結果を授業に生かすための取組を徹底しなければならない。

・三者面談について、担任による差が大きかった。学年でしっかり期間を設けて設定し、三者面談は原則実施するとの意識を持たせ、文書連絡を的確に行うとともに、保護者会での周知に加え、HPも活用して周知を徹底させる。

・進路指導室と進路資料室の活用を進路指導部のイニシアチブによってより有効に行うことができるようになってきた。卒業生や卒業生保護者で進路未決定者は少ないが、進路相談機能の充実を図りたい。

## (3) 生活指導

・学校行事や特別活動は、新型コロナウイルス感染症予防対策に伴い、大きな制限があったが、少しずつではあるが実施できることが増えてきている。状況を適切に判断しながら、生徒ができる学校行事を準備することができてきた。今後も、生徒が主体的に活動できることを増やせるよう検討していく。

・家庭学習時間を確保するため、下校時間の徹底を部活動やクラブ委員会を通じて徹底するように指示している。

・長期休業期間中は、講習と部活動、学校行事の準備が両立できるように、生徒に計画的に指導する。特に講習実施期間中は1日通しての部活動ではなく、半日の部活動の実施を原則とさせる。

・登下校時や校外で行う部活動での移動時の自転車利用など、交通安全の指導を徹底する。近隣住民は東大和の生徒であることが十分に判り、よく見ていることを把握させて、皆の模範となる行動ができるように指導する。生徒自身の事後防止に加えて、加害者とならないように指導徹底する。

・日頃から生徒の身だしなみや行動への注意喚起を学校として行うことも重要である。本校の生徒は、指導されている内容を理解して行動できるので、特定の教員だけでなく組織的な対応をすることを推進する。全教員での意識付けを確実に挙げる。

## (4) 特別活動・部活動・生徒会活動

・部活動は、部活動の内容、活動目標、指導方針、年間指導計画、週予定、活動場所、活動日・時間、顧問、活動休養日、事故防止と事故発生時の対応等について明確にして実施する。事前周知の徹底を図る。

・同窓会・PTAによる部活動支援を受けている。奨励金の扱い、会計報告等について、学校のルールを徹底して、報告する仕組みを徹底させる。

・部活動予算執行、生徒会予算執行は、生徒の関与を増やしたい。生徒の活動を広げるためにも、予算編成・執行にもっと生徒が関わる仕組み作りが必要である。予算要求用紙はクラス・部活動会計が作成し、予算執行には生徒会会計が承認する等、根本の仕組みの見直しが大切である。

・部活動の活動状況、特に活動延長の部活動の把握を職員室で行うことができている。職員室でも延長活動して

いる部活動が半るように、生活指導部に準備させる。

(5) 保健・美化・健康づくり

- ・校内環境改善に向けて、問題がある箇所については速やかに副校長または経営企画室に連絡するように徹底する。
- ・平常時からの重点目標の設定やスローガン作成等を生徒に行わせる。またリサイクル活動についても率先して行えるように指導する。
- ・生徒支援委員会の開催により、課題を抱える生徒を教員間で共通認識できている。問題がある生徒は増加傾向である。早期に支援体制を確立して、生徒の支援することを継続する。
- ・1学年が教室からゴミ箱を撤去する指導を行った。学校全体として支援する体制を作りたい。

(6) 募集・広報活動

- ・推薦に基づく選抜および学力検査に基づく選抜の募集倍率は、わずかではあるが上昇した。しかし、女子の倍率が低い。学校全体として魅力ある学校を模索する必要がある。公共交通機関を使わないで通える学校という選択も中学生がしている傾向が見られている。また、校舎改築も間近に控えており、今後の計画的な募集対策が必要となる。今年度の学校見学会は、感染防止対策を徹底した上で、順調に行うことができた。
- ・生徒の地域に貢献する機会が減少している。ボランティア活動を含めて、今できることを検討して、地域への学習支援や部活動支援を検討する。

(7) 学校経営・組織体制

- ・分掌間や学年・分掌間で事前調整を綿密に図ることが重要で、中心となる分掌に核として行わせ、相互理解をなお一層推進していく必要がある。企画調整会議で始めてでるのではなく、事前の調整を図る。
- ・HPの活用は、総務部が積極的に行い、改善されてきている。経営企画室職員も含めて、より積極的なHPでの情報発信に心がけるようにする。
- ・自立経営推進予算の学校経営支援センター執行率を高めていくためには、必要物品を早めに請求することが不可欠である。センター執行率の60%になるよう努める。
- ・学校経営計画を柱とした企画立案が極めて少ない。各分掌・学年で計画を基とした企画立案を積極的に行い、学校改善に向けた取組の推進が必要である。
- ・企画調整会議前に、学年・分掌で進めようとしている校務に関する報告・連絡・相談をもっと積極的に行うようにする必要がある。学校経営計画にも示していたが、前日までに文書を提出すること、文書が間に合わない場合は、口頭で行うことを次年度は徹底させる。